

愛媛の救急医療を守る143万人の県民運動

あいきゅういちよんさんうんどう
(愛救143運動)

平成23年度



土カちゃん

マリンナ

赤ちゃん

山嵐

たぬき

母子たいてい

ララなり

愛媛の医療を守る『7人のDr.』

県内の救急医療の受診実態

【二次救急医療機関での救急患者受入実態調査(平成23年度)】

1. 調査依頼先 県内の全ての救急告示医療機関(60機関) 回収率 100%
2. 対象患者 診療時間内の救急車での搬送患者、診療時間外の全ての患者
3. 調査期間 平成23年11月1日～11月30日(30日間)
(平成20年度からの4年間、毎年11月に実施)

4. 調査項目

受診の時間帯(2時間単位)

受診者の属性(年齢、性別、住所)

来院形態 (救急搬送、自力:walk-in、転院搬送 他)

主な受診科

主な傷病 傷病大分類による区分

症状の程度(消防統計と同様の区分)

- ・特に軽症 …… 通院加療を要しないもの
- ・軽症 …… 入院を要しないが通院加療を要するもの
- ・中等症 …… 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・重症 …… 生命の危険の可能性のあるもの
- ・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
- ・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの



たかちゃん

【医療圏別の患者受入状況】

県内受入患者総数 … 14,415人(H23.11 1ヶ月間)

医療圏	宇摩	新居浜 ・西条	今治	松山	八幡浜 ・大洲	宇和島	計
患者数	950	2,145	1,974	6,220	1,205	1,921	14,415
構成比	6.6	14.9	13.7	43.1	8.4	13.3	100.0
救急告示病院	4	12	13	17	9	5	60
患者数/病院 (A)	238	179	152	366	134	384	240
(A) 大洲・八幡浜を 1とした場合	1.77	1.34	1.13	2.73	1.00	2.87	

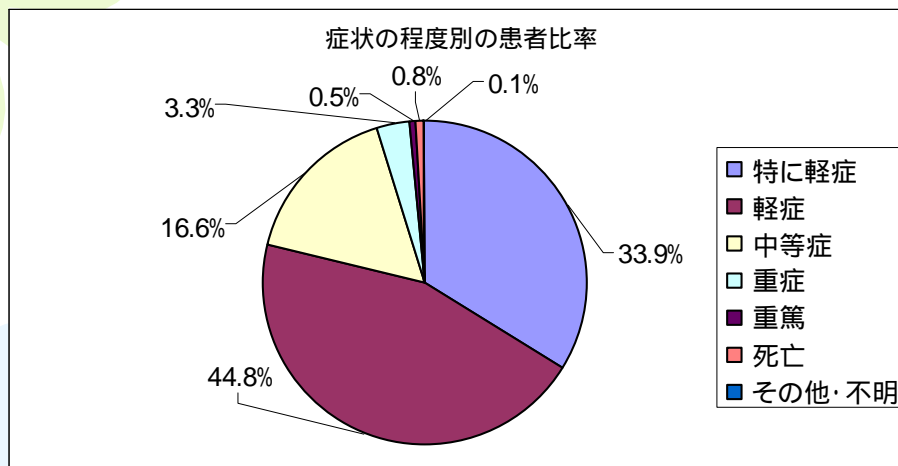
- 医療圏別では、「松山圏域」の患者数が最も多く、全体の4割強を占めている。
- また、救急告示病院当たりの平均患者数では「宇和島圏域」が最も多く、次いで、「松山圏域」、「宇摩圏域」の順となっており、単純比較すると「宇和島圏域」と最も少ない「八幡浜・大洲圏域」との間で約2.8倍の差がある。



赤ちゃん

【症状の程度別患者比率】

全体の8割近くが軽症患者



軽症患者数11,337人

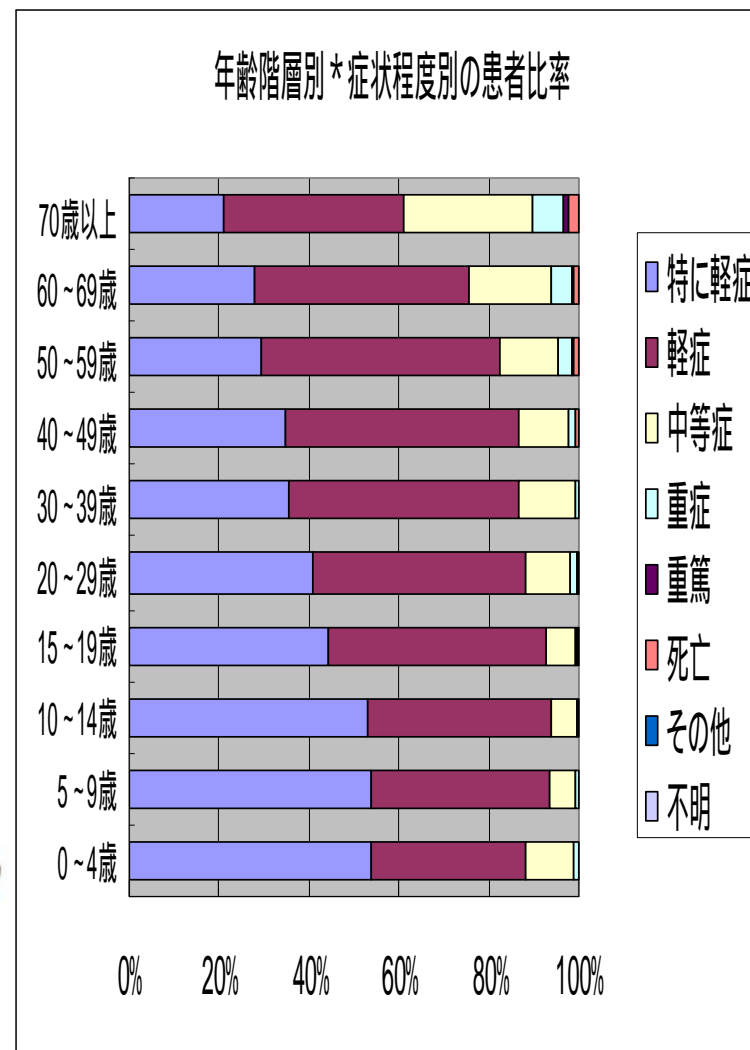
- 患者の症状の程度を、『消防統計』の基準で見ると、通院加療を要しない「特に軽症」患者及び、入院を要しない「軽症」患者が全体の78.7%を占めている。
- なお、生命の危険の可能性がある「重症」以上の患者の比率は、全体のわずか4.6%程度に過ぎない。



たけま

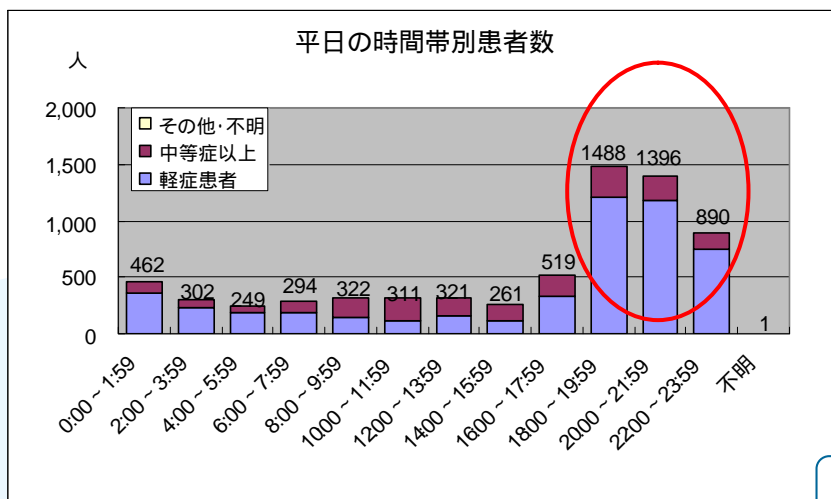
【年齢階層別の症状の程度】

年齢階層が低いほど、軽症患者の比率が高い



【時間帯別患者数】

平日・時間外は午後6時～8時の患者が最多



患者数6,816人

・平日・時間外(18:00以降)の受診動向を見ると、「18:00～19:59」の時間帯の患者が最も多く、その後も深夜0時頃まで、多数の患者が来院している。

平日・日中の患者は、主として救急車による搬送患者。

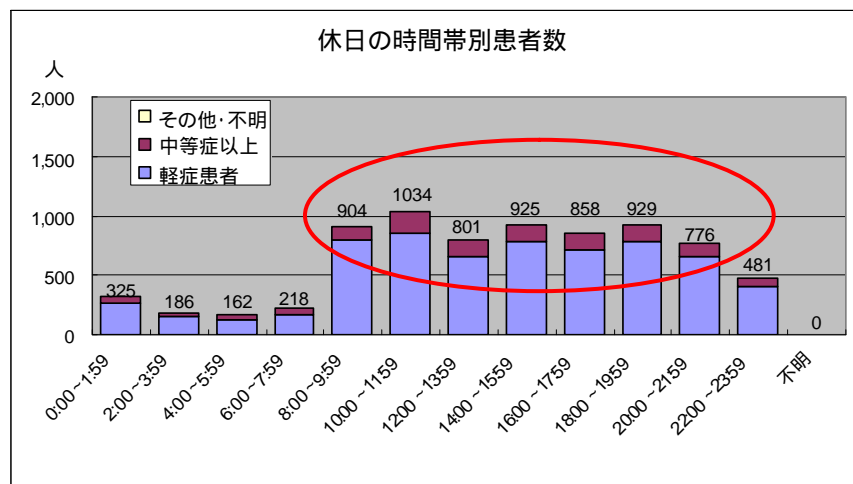


山嵐

休日は、午前8時～午後10時頃まで絶え間なく来院

患者数7,599人

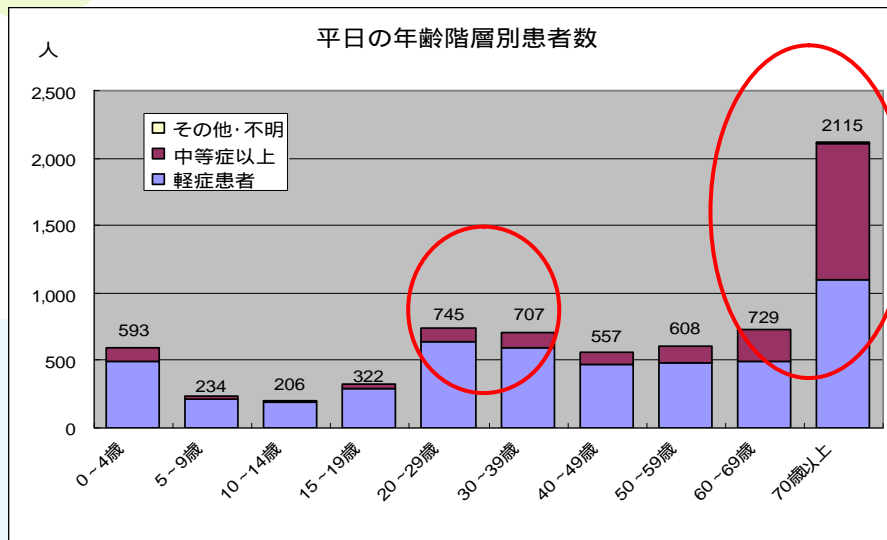
・休日の受診動向を見ると午前8時以降、日中から夜10時頃まで、多数の患者が絶え間なく来院している。



うらなり

【年齢階層別受診動向】

平日・時間外及び休日とも70歳以上の高齢者層が最多



- ・ 「70歳以上」31.0%
「60～69歳」10.7%
と高齢者層で4割以上を占めている。
- ・ 次いで「20～29歳」「30～39歳」の比較的若い勤労者層が10.9%、10.4%となっている。

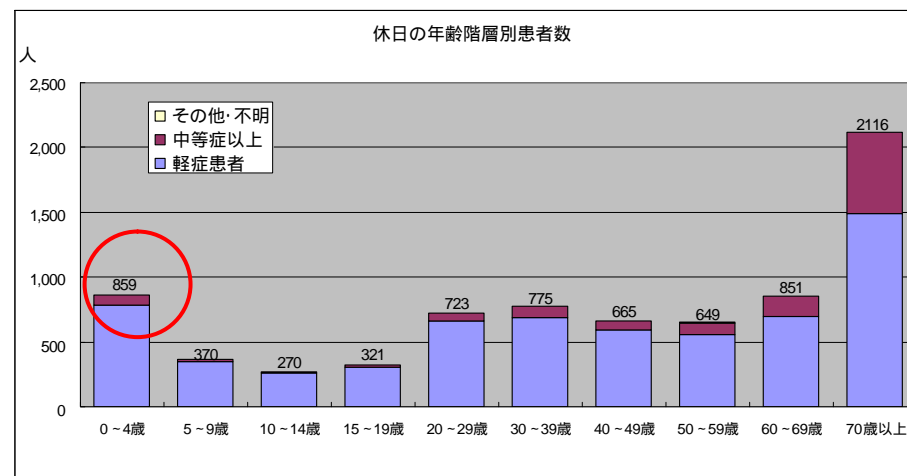


母子だいこ

・ 休日も、平日とほぼ同様の構成だが、4歳以下の割合が高くなっている。

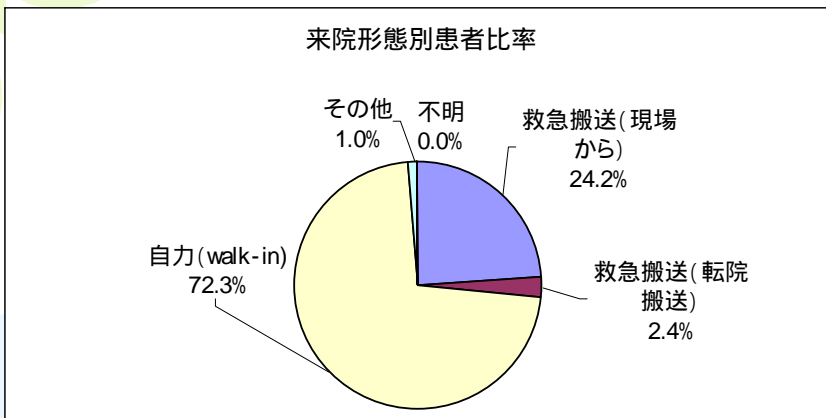


たぬき



【来院形態別受診動向】

自力で来院(walk-in)の患者は、救急搬送患者の2.7倍



- 自家用車等を利用し自力で来院 (walk-in) する患者が、全体の7割以上を占め、救急搬送患者の2.7倍となっている。



赤ちゃん

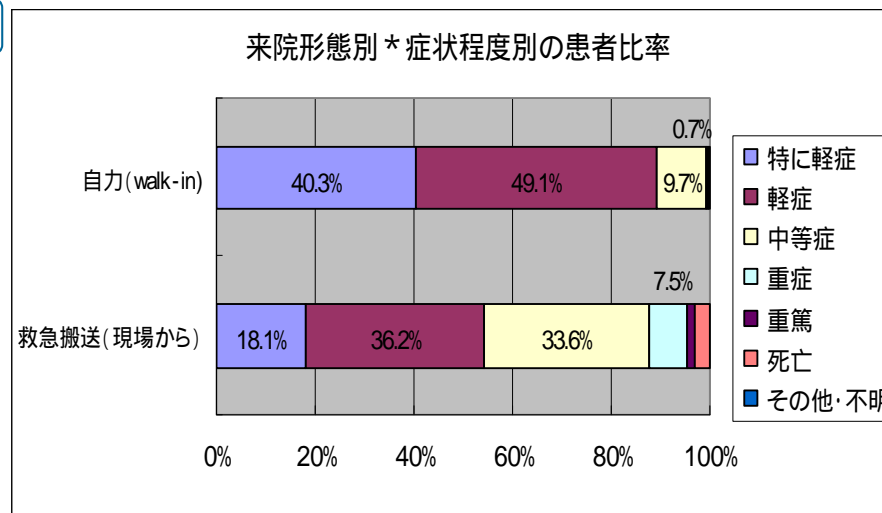
【来院形態別 * 症状の程度別患者比率】

自力(walk-in)患者の9割近くが軽症患者



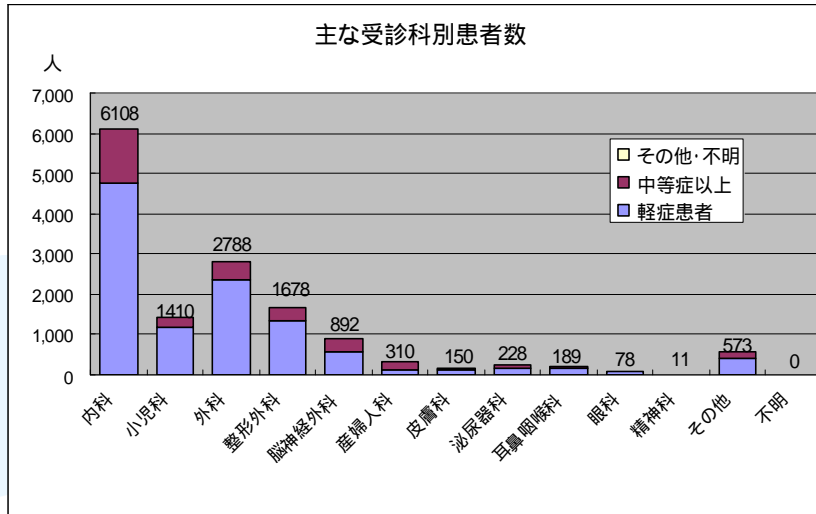
土方ちゃん

- 「特に軽症」、「軽症」の患者の比率は、救急車で現場から搬送される場合は54.3%であるが、自力での来院 (walk-in) の場合は89.4%と増加する。



【主な受診科別患者数】

内科の受診患者が約4割



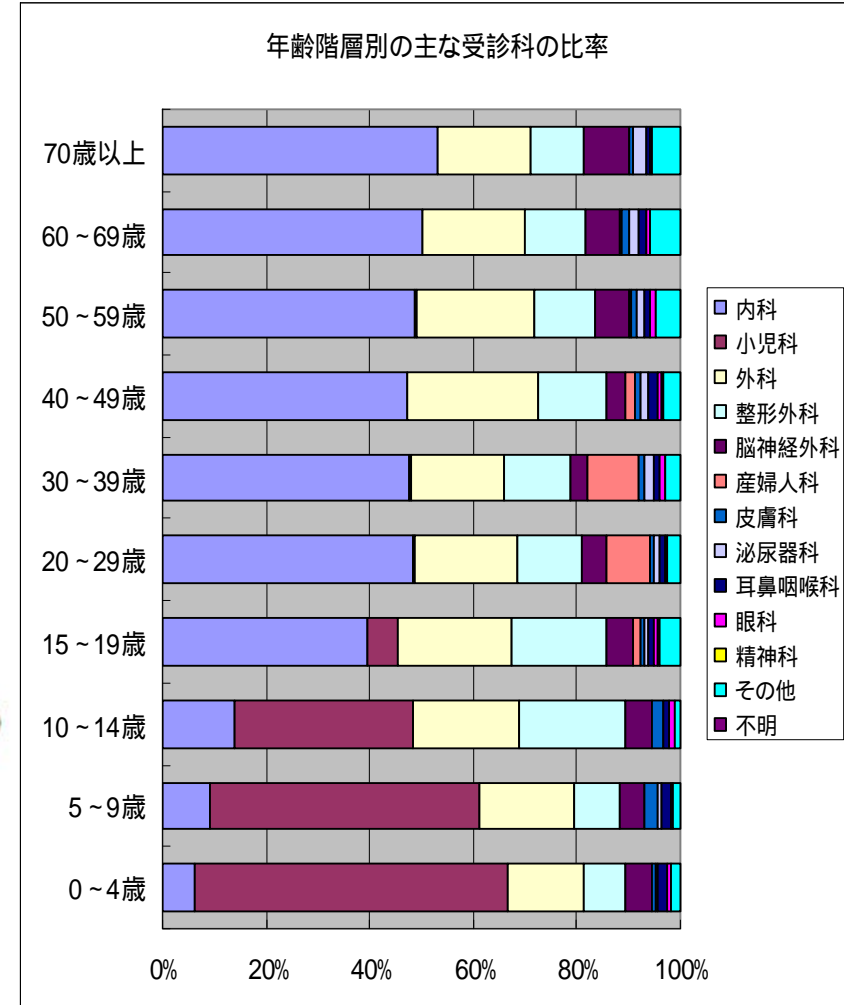
- ・ 患者の主な受診科では「内科」が最も多く、42.4%を占め、以下、「外科」、「整形外科」、「小児科」の順となっている。
- ・ 14歳以下は小児科が多いものの、15歳以上では主な受診科の患者比率は大きく変わらない。



マドンナ

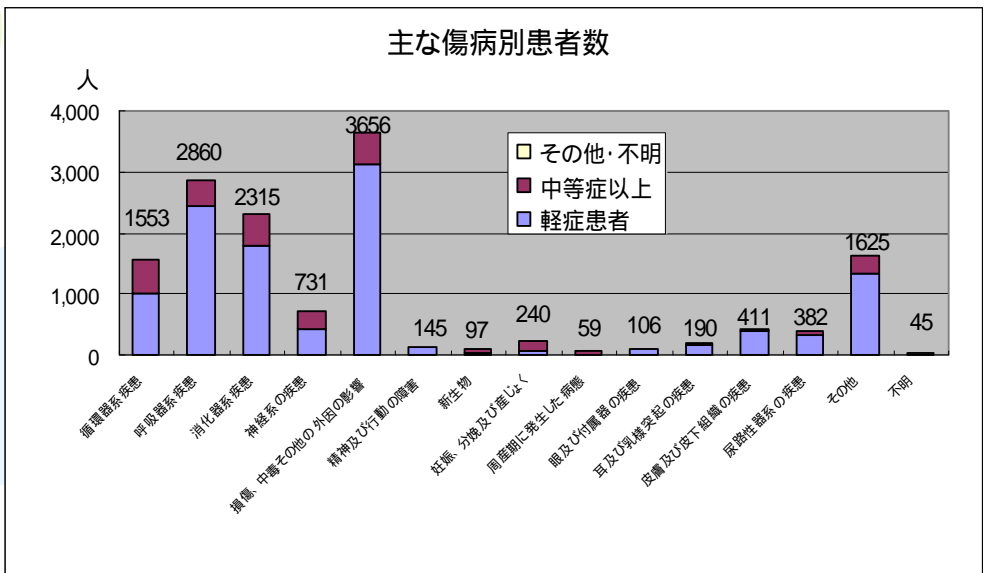
【年齢階層別の主な受診科】

年齢階層による患者比率の違いは少ない



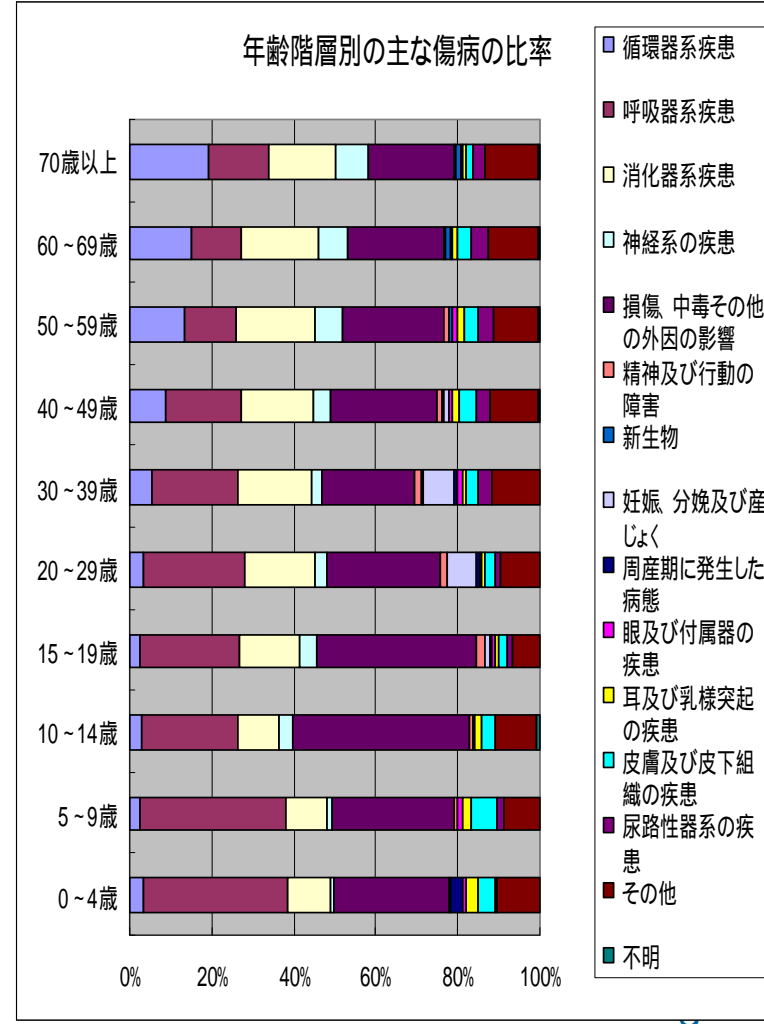
【主な傷病別患者数】

損傷・中毒等が1位、呼吸器系疾患が2位



【年齢階層別の主な傷病】

年齢階層によって傷病の患者比率が異なる



- 9歳以下では「呼吸器系疾患」患者の比率が高く、10歳以上ではケガ等「外因の影響」患者の比率が高い。
- 15歳以上では、年齢階層が上がるにつれ、「循環器系疾患」患者の比率が増加している。

【平成20年度との比較】

受入患者総数:11.9%減少 (平成20年値 16,362人)

軽症患者数:13.6%減少 (平成20年値 13,126人)

すべての医療圏において患者数及び軽症患者数が減少しているとともに、全患者における軽症患者の割合も減少している。

時間帯別患者数

曜日別、時間帯別では、平日の夕方～夜間、休日の日中に患者が集中する傾向は20年度と同様だが、ほとんどの時間帯で患者数が減少している。

年齢階層別患者数

年齢別でも、高齢者層、乳幼児、比較的若い勤労層の患者数が多い傾向は同様。「40～49歳」「70歳以上」を除く、すべての年齢階層で患者数が減少しているが、特に「0～4歳」の患者の減少率(31.4%)が著しい。

小児救急医療電話相談(#8000)の効果

(1日平均利用件数:平成20年11月 4.5件、平成23年11月 13.0件 2.88倍)

来院形態別患者数

傾向は同様だが、自力で来院(walk-in)した患者が13.7%減少するとともに、自力で来院(walk-in)した患者における軽症患者数も14.6%減少している。

受診科別、傷病別患者数

傾向に大きな変化はないが、小児科受診患者が31.5%減少していることが特徴的である。